２０２４年（令和６年）　　６月１３日　木曜日

デーリー東北　　１０面　掲載

全日本大学野球

八学大 初戦敗退

学生野球の春季王者を決める第73回全日本大学選手権第3日は12日、神宮球場と東京ドームで2回戦6試合を行った。5年ぶり9度目の出場で初戦に臨んだ八学大（北東北）は初戦で天理大（阪神）と対戦し、1－11の5回コールドで敗れた。準々決勝4試合は13日に神宮球場で実施。連覇を目指す青学大（東都）が中京大（愛知）と、天理大は関学大（関西学生）と対戦する。　（桑田友人）

【2回戦・八学大ー天理大】４回、連打を浴びてマウンドを後にする西山幹太（手前中央）＝神宮

▽2回戦

八学大	00010	1
天理大	10082×	11

（5回コールド）

（八）岩井、小林直、西山、加藤、粕谷－畠山
（天）長野－山城
▽二塁打＝森（八）石飛3、天野（天）
▽試合時間　1時間35分
（球審＝水沼、塁審＝中野、玉置、田中）

【評】八学大は投手陣がつかまり、試合をつくれなかった。同点で迎えた四回、救援の小林直、西山、加藤が我慢し切れず一挙に8失点。五回1死満塁の場面で死球による押し出しでコールド負けを喫した。打線は四回、併殺の間に1点を返したが、火が付く前に幕が下りた。

中京大（愛知）	000300000	3
中部学院大（東海）	000000000	0

（京）安藤－森瀬
（部）長倉、古沢、小川－竹中
▽本塁打　川瀬（京）

九産大（福岡六大学）	020000100 02	5
仙台大（仙台六大学）	002000100 01	4

（延長11回、10回からタイブレーク）
（九）大嶋、一ノ瀬、水崎－菊池
（仙）大城、小野寺、佐藤、渡辺－井尻
▽本塁打　阿部（九）

帝京大（首都）	200001001	4
関学大（関西学生）	021000000	3

（帝）栄、久野－池田
（関）坂本、岡、古川、溝口－永谷
▽本塁打　馬場（関）

和歌山大（近畿）	000000000	0
東日本国際大（南東北）	00000010×	1

（和）島、近藤－松田、井手
（東）阿字、藤井－三井

上武大（関甲新）	000000200	2
仏教大（京滋）	000000010	1

（上）井出、木口、酒井－平井
（仏）合木、野村、中西、赤木－小谷
▽本塁打　喜多（仏）

ミス響き流れつかめず

9度目の挑戦となった八学大は相手打線の猛攻に屈した。北東北大学野球春季リーグ戦は前半の失点を抑えて終盤に打線が畳み掛けるスタイルで勝利してきたが、この日は自分たちの土俵に持ち込めず。主将の小林日出は「同点の場面で守り切れなかった。投手だけでなく、野手にもミスが出た」と反省を口にした。

追い付いた後の四回裏が焦点だった。2番手の小林直生が連打で降板。新沼舘貴志監督は「一番経験のある西山（幹太）で流れを変えたかった」とエースをマウンドへ送った。直後は連打を浴びたが、三振で持ち直したかに見えた。

4人目の打者にフルカウントで投じた6球目、西山は見逃し三振を確信した様子だったが、判定はボール。続く二死満塁の場面では打ち取った当たりが連続で内野安打となるなど、悪い流れを断ち切れなかった。

「この経験に選手たちがどういう姿勢を取るかを見ていく」と新沼舘監督。

西山は「この試合で何が起こったかを明確にしないといけない」、小林日は「昨年の富士大は4強で、自分たちは初戦負け。一から見つめ直す」。屈辱的な敗戦を糧とし、秋のリベンジを誓った。（桑田友人）

【八学大】		打	安	点	振	球
⑦	南	2	1	0	0	0
⑧	吉田	2	1	0	0	0
⑨	平尾	2	1	0	0	0
③	小林日	2	0	0	0	0
DH	菊地	2	1	0	0	0
⑥	加納	2	0	0	0	0
⑤	田中	2	0	0	1	0
④	森	2	1	0	0	0
②	畠山	2	0	0	0	0

犠盗失併残
00022　18　5　0　1　0

【天理大】		打	安	点	振	球
⑧	井脇	2	0	2	0	2
DH	藤田大	2	1	2	0	1
⑥	天野	3	2	3	1	0
⑨	石飛	3	3	3	0	0
⑤	下林	2	0	0	0	0
④	浅野	3	1	1	0	0
⑦	小池	2	1	0	0	1
②	山城	3	1	0	2	0
③	杉下	2	1	0	0	1

犠盗失併残
20005　22　10　11　3　5

投手	回	打	安	振	球	失
岩井	2	8	1	2	1	1
小林直	1 1/3	6	2	0	0	2
西山	1/3	7	4	1	2	6
加藤	2/3	6	3	0	1	2
粕谷	0/3	2	0	0	1	0
長野	5	18	5	1	0	1

デーリー東北新聞社提供